

学校教育目標	「感動を分かち合おう 目標を高く掲げよう 真理を追究しよう」 ○自らの生き方を創り出す子どもを育てます。【知】 ○個性豊かに生きる子どもを育てます。【徳】 ○たくましく生きる子どもを育てます。【体】 ○横浜に生きる子どもを育てます。【公・開】				
	創立 37 周年	学校長 濱崎 利司	副校長 高橋 陽子	3 学期制	一般学級：9 個別支援学級：2
学校概要	児童生徒数： 258 人 主な関係校： 鴨志田第一小学校・鴨志田緑小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	鴨志田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>＜人と学ぶ・人に学ぶ・自ら学ぶ力＞</p> <p>・「あったかさ」に表される豊かな気持ち、地域を思いやる気持ちをもつ子・互いを認め合い、伝え合い、学び合う子</p> <p>・主体的に学習に取り組む子・運動に楽しく取り組み、健やかな体をはぐくもうとする子・リーダーシップを発揮し、貢献する子</p>	<p>鴨志田中 鴨志田第一小 鴨志田緑小</p>	<p>「伝え合い、学び合う力を育み、9年間の学習に主体的に取り組むことができる子ども」「互いを認め合う豊かな心をもった子ども」「運動に楽しく取り組み、健やかな体をはぐくもうとする子ども」「地域に貢献できる子ども」</p> <p>・ブロック内小中合同授業研究テーマに基づく授業づくり(授業見学と意見交換・年2回)</p> <p>・ブロック内各部会(児童生徒指導・特別支援教育・児童生徒会・学校保健委員会)における情報交換・共有の充実と実践</p> <p>・ブロック3校での地域連携の深化</p> <p>* 新型コロナ禍を踏まえ、予定変更あり</p>

中期取組目標	<p>「チーム鴨志田」として、全教職員が生徒と保護者にとって安全・安心で、活力と魅力のある学校づくりを目指します。</p> <p>・特別支援教育に基づく、教職員の「生徒理解力」向上を図り、授業や生徒会活動を充実させて生徒の自己有用感を醸成します。</p> <p>・「学校運営協議会」を中核として、地域との交流促進と地域人材の積極的活用に取り組み、より一層の地域密着(連携と安定化)を目指します。</p> <p>・ブロック内小学校と地域密着を共同歩調として、連携・協働をより一層進めます。</p> <p>・教職員の人材育成を通して、組織対応力を向上させ、豊かで魅力的な教育活動を組織的に展開します。</p> <p>・「情報教育実践推進校」としての経験を活用して、国の「GIGAスクール構想」に基づき、ICT機器の「ChromeBook」「ロイロ・ノート」「Google for education」等を授業や生徒活動において、積極的活用を継続します。</p> <p>・新型コロナ禍において、感染症防止に最大限努めるとともに、生徒主体に「できる・やれる・可能なこと」の実践を継続する。</p>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	<p>新型コロナ禍での対応を踏まえ、①小学校との学習接続を意識し、「9年間で育てる子ども像」を意識した授業づくりを継続する。②少人数・TT授業における効果的な学び方を工夫し、学習習慣と基礎学力の定着化と授業改善、学力向上に努める。③「情報教育実践推進校」としての経験を活用し、ICT検討委員会を中核に横断的推進を一層図り、ICT支援員の助言・支援をもとに全教科がICT機器の積極的活用を継続し、充実化を図る。</p>
徳 豊かな心	<p>①教育相談や各種アンケート等の結果を教職員間で共有し、個に寄り添った指導・支援を継続実施する。②弁護士によるいじめ予防授業の継続から、「考え、議論する」授業と多角的・多面的な見方の定着化を図る。③生徒が安心して豊かに生活できる「あったかい学校」づくりと生徒主体の主体的な取り組み継続を図り、より一層の「安全・安心な学校」づくりに取り組む。</p>
体 健やかな体	<p>①新体力テストの結果から、体力向上に向けて生徒一人ひとりの具体的な目標に繋げ、体力向上を目指し、実践する。②一校一実践運動である「縄跳び」に授業で継続して取り組み、一層の体力向上を図る。③過年度の「全国健康づくり推進学校優良校」表彰の実績から、学校保健委員会において生徒主体の取組を継続し、小中ブロック内で共有・連携する。④「地域運動部活動事業」でインストラクターからの指導により、スポーツの楽しさを味わい楽しむ資質・能力とデジタル教科書を使用して健康な生活を実践する資質・能力を育成する。</p>
公 開 学校運営協議会	<p>地域密着を念頭に、①中里北部連合地域の新型コロナ禍への独自取組である「気づきの和」に連携し、生徒が地域との繋がりを感じられるように取り組む。②新型コロナ禍での良さであるリモート開催を継続し、学校家庭地域連携の中核として、協力体制を継続する。③ブロック3校での連携を強化を図り、合同での開催を図る。④学校便り「KAMONEWS」を作成し、学校ホームページに取組や情報をその都度掲載し、積極的に活用する。また、メール配信でも保護者に広報する。</p>
いじめへの対応	<p>①「子どもの社会的スキル横浜プログラム(YP-アセスメント等)」をアンケートを年2回活用し、傾向と把握、生徒理解に活用し、いじめを許さない集団と受容的な環境づくりを図る。②チームによる支援を多角的・多面的に行い、学運協との連携をより一層推進し、委員である弁護士をスクールロイヤー的存在としての対応を継続する。③弁護士による道徳一斉授業をリモートでも実施する。継続によって3年間でのいじめ予防の理解を深める。④「いじめ防止市民フォーラム」で、生徒会主体で行った発表の取組成果を学校全体に浸透させる。</p>
人材育成・組織運営(働き方)	<p>①メンターチームではメンティーリーダーを中核として、主体的且つ自主的に取り組み、教師力向上を目指す。また若手とベテランとの融合を図り、ICT活用等で教職員組織活性化を推進する。②「地域部活動推進事業」等で、教職員の負担軽減と業務改善を図る。学校予算の適切な執行に基づき、グループウェアや採点ソフトを含むデジタルシステムの積極的活用、ストレス軽減化と教職員のリフレッシュ・プライベート充実等で、生徒への指導・支援に還元できる環境をつくる。③教育公務員としての自覚に基づき、「校長室便り」等の資料を活用し、継続して不祥事防止に努める。</p>
特別支援教育	<p>①特別支援教育コーディネーターを中心に、より充実した校内研修とスクリーニングや「学校生活で困っていることに関するアンケート」、「子どもの社会的スキル横浜プログラム(YP-アセスメント等)」等を実施、その活用を図るとともに全教職員が生徒の特性に応じた多様なニーズに対応できるよう、一層のスキルアップを図る。②特別支援教育委員会を毎週開催し、SC・SSWと連携して配慮を要する生徒情報の共有と対応を継続し、寄り添いとICT機器活用を含めた合理的配慮等組織的対応を深化させる。</p>
キャリア教育	<p>①職業講話・職場体験・模擬面接練習・弁護士による道徳一斉授業等が、地域や外部機関連携によって「オンライン」導入による効果的な充実にも努め、改善を図る。また、新型コロナからの対応を模索する。②地域との横断的繋がりを意識して、授業と教育活動に取り組むとともに、活動報告と学習成果の校内外への積極的な発信を企図する。</p>
小中一貫	<p>新型コロナ禍での対応を踏まえ、①ブロック内小中合同授業研では、小学校との学習の接続を意識し、テーマに基づく授業づくりを進める(年2回のうち、1回は本校実施)。②9年間で目指す子ども像と資質・能力を共有し、ブロック内各部会(児童生徒指導・特別支援教育・児童生徒会・学校保健委員会)を充実させ、メンター研修もテーマ設定し、リモートでの実施も見据え、合同で行う。③昨年度の「いじめ防止市民フォーラム」発表での取組継続として、「横浜こども会議」をはじめ、いじめ予防の小中間連携を図る。</p>
地域連携	<p>新型コロナ禍での対応を踏まえ、また新型コロナ禍での良さを取り入れ、①地域密着をモットーに、より安定して円滑な連携を図る。具体的には地域内の繋がりを意識した「気づきの和」に参画と生徒が将来地域を担って支える意識の育成と取組を組織を通じて実践する。②学習成果等学校情報について、ホームページや「KAMONEWS(学校便り)」、またメディア等を利用し、発信する。③負担軽減・働き方改革に繋がる地域・学校行事の代表のみの参加・精選を模索する。</p>